

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：82104

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）

研究期間：2020～2023

課題番号：20KK0150

研究課題名（和文）市場経済がモンゴル遊牧民の草原保全の規範意識に及ぼす影響に関する計量分析

研究課題名（英文）An empirical analysis of the influence of the market economy on pastoralists' normative attitudes toward grassland conservation in Mongolia

研究代表者

鬼木 俊次 (Oniki, Shunji)

国立研究開発法人国際農林水産業研究センター・社会科学領域・主任研究員

研究者番号：60289345

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 14,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、モンゴル国において、都市部の市場経済が牧畜民の移動に関する規範やモラル意識、協力行動に影響を及ぼすことを見いだした。牧畜民世帯の参与観察により、牧畜民のモラル意識と草地の保全的利用に関する社会規範の実態を明らかにした。また、社会心理学と行動経済学の手法を用いた定量的な分析により、牧畜民の季節的移動および自然災害時の避難的移動の両方において、市場経済化の影響で牧畜民の協調的な行動が減少する傾向があることを明らかにした。現地研究者との共同調査の実施と2回の国際ワークショップにより、新たな牧草地利用規範の構築の必要性が提議された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、文化人類学、社会心理学、行動経済学の手法を組み合わせることによって、市場経済が牧畜民の移動に関するモラル意識や社会規範に影響を及ぼす重層的なメカニズムを示した。これにより、住民のモラル意識に直接働きかけるような活動や介入を行うことによって、資源保全的な社会規範を形成する可能性が示唆された。本研究において、こうした手法が共有資源管理に関する住民の行動分析に応用できることが分かったため、その他の共有自然資源に関する研究にも用いられる可能性がある。

研究成果の概要（英文）：This study found that a market economy in urban areas affects pastoralists' movement norms, moral attitudes, and cooperative behavior in Mongolia. Participatory observation of nomadic households clarified the situation of pastoralists' moral awareness and social norms regarding the conservative use of grasslands. Also, quantitative analyses using social psychology and behavioral economics methods revealed that herders tend to behave uncooperatively under the influence of the market economy in both seasonal and emergency movements during emergencies. Joint research with local researchers and two international workshops proposed the need for the development of new norms for grassland use.

研究分野：行動経済学

キーワード：牧畜 規範 行動経済学 文化人類学 社会心理学 乾燥地 道徳 草地

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 世界には広大な乾燥草原があるが、その植生は脆弱で不安定である。ある地域で過剰な家畜の放牧が行われれば草原の植生は容易に破壊され、砂漠化が起こりうる。本研究は、アジアの代表的な乾燥草原を有するモンゴルを研究対象とする。モンゴルの乾燥草原では牧畜民による遊牧が行われているが、伝統的に定期的な季節移動を行うという社会規範がある。また、干ばつや雪害などの自然災害のときには、草地資源の少なくなった地域から比較的多い地域へ移動させる必要がある。こうした社会規範のため、広大な草原を均等に利用することにより全体の放牧圧が低く保たれてきた。

(2) 近年モンゴルでは都市部を中心に急速な経済成長が続き、伝統的な規範の維持が脅かされている。都市部の市場やサービスの恩恵を受けるために、牧畜民が都市の近くに集まり、過放牧の恐れが生じている。もし市場経済の発展とともに個人の利益を追求する人が増えれば、協力的な活動(コレクティブアクション)は難しくなる可能性がある。モンゴルの伝統的な移動に関する社会規範が市場経済の発展と両立可能なのかという問題についてはよく分かっていない。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、牧畜民の移動に関する社会規範とモラル意識の関係を解明し、市場経済の発展がそれに及ぼす影響を推定することである。まず、牧畜民世帯の参与観察により、牧畜民のモラル意識と草原の保全的利用に関する社会規範の実態を明らかにする。次に、社会心理学と行動経済学の手法により、市場経済化がモラル意識に及ぼす影響ならびにモラル意識が社会規範へ及ぼす影響を定量的に示す。これらの分析結果を受け、牧畜民の移動に関する社会規範をベースにした草原の保全的利用の可能性を示す。

3. 研究の方法

(1) 本研究は、以下の研究手法を組み合わせ、情報交換を行うことで定性的かつ定量的そして包括的な分析を行う。

(2) 文化人類学の手法により牧畜民世帯の参与観察を行い、牧畜民の移動や協力に関する認識について調査した。モンゴル中部の1市1県、および東部の2県で複数の牧畜世帯を訪問し、現地調査を行った。

(3) 経済学と心理学のチームは共同で、ランダムサンプリングによる牧畜民のアンケート調査を行った。調査地は、都市近郊(1市2地区、1県3郡)および遠隔地(モンゴル東部2県2郡およびモンゴル西部2県2郡)である。広域の郡レベルの予備調査を行い、農業、鉱工業、林業、自然保護区等の外的

な影響が少なく、民族的な特殊性の少ない調査地を選択した。各地域の全世帯からランダムに対象世帯を選択した。質問の作成は日本側とモンゴル側の研究者が共同で行った。質問文

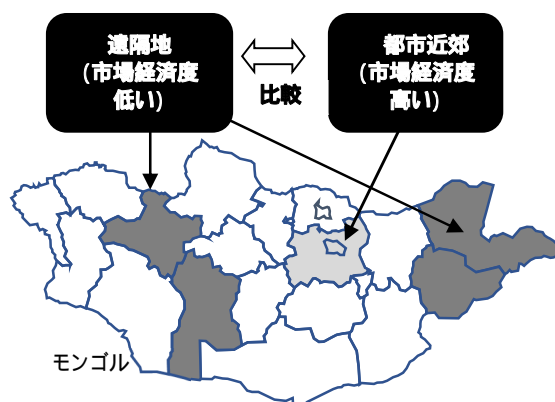


図1 調査地(遠隔地と都市近郊)

の修正と現地での検証を繰り返しながら調査票を作成した。モンゴル生命科学大学の教員がタブレットによる調査システムを用いて調査を行い、調査期間中日本で回答に問題がないか確認した。

4. 研究成果

(1) 地域調査の結果により、都市周辺と遠隔地の季節移動に関する社会規範を比較したところ、人口密度や市場経済などの社会経済的条件の影響を受けることが分かった。移動に関する社会規範は、人口密度が高いほど形成されやすく、市場アクセスが良いほど形成されにくいことが示唆された。モンゴル西部地域のように遠隔地でも人口密度が比較的高く、一人当たりの牧草資源が少ない地域では、牧草地の有効利用のため、移動の規範が成立しやすいようである。都市に近い地域では人口密度とは関係なく社会規範が成立しにくい。

(2) 牧畜民サンプル調査の結果では、市場アクセスは牧畜民のモラル意識と相関関係があることから、都市化や市場経済の発展は、牧畜民のモラルに影響する可能性がある。さらに、牧畜民のモラルと季節移動の社会規範の間に相関関係がある。特に、結果主義や自由至上主義等のモラル判断は季節移動の社会規範とマイナスの関係があり、都市化や経済発展とともに共有資源利用の規範が薄れる可能性があることが示唆された。

(3) 広域の特徴をみるため、モンゴルの郡ごとの移動に関する社会規範について分析を行った。その結果、遠隔地で人口密度が比較的高く、一人当たりの牧草資源が少ない地域では、移動の規範が成立しやすいことが分かった。しかし、都市に近い地域では人口密度とは関係なく社会規範が成立しにくい傾向が見られた。これにより、都市化は移動の規範を成立させることにマイナスの影響を及ぼすことが示唆される。

(4) 文化人類学の手法によりモンゴル東部およびモンゴル中部において牧畜民世帯の参与観察を行い、草原利用に関する認識とモラル意識、社会規範の関係性を調査した。牧畜民のインタビューにより、市場とのつながりの深い酪農家は「伝統的」な牧畜民とくらべて災害時に牧畜民を自らの牧草地に受け入れるという意向が少ないことが分かった。

市場経済化が進展するにつれて過去 30 年間に牧畜民が近隣世帯と共同で行う作業が減少した。貨幣経済が浸透するにつれて、かつての近隣共同体の共同作業が賃金労働者の雇用に置き換わってきた。また、季節的な移動性が低くなるにしたがって、社会的交換の必要性が低くなり、人々の互助性の低下を招いていることが分かった。さらに、家計の市場への依存度が大きくなる中で、ここ数年間は自動車の燃料や濃厚飼料など生産投入財の価格が高騰しているため、牧畜民の所得が圧迫されている。

(5) モンゴルの牧畜民は近隣の牧畜民だけでなく、遠方から移動してきた牧畜民（オトル）に対しても協力的行動を取ることが多い。牧畜民のサンプル調査によって、牧畜民らは返報性期待を介してこのような行動を取ることが示された。ただし市場経済の発展に伴い、牧畜民の願望と牧畜スタイルが変化し、定住化が進むことにより、他の牧畜民との相互作用の機会が減少している。このような相互作用経験の減少は直接的に他者への協力的行動に影響しているのではなく、相互作用が減ることによって他者からの返報的行動が期待できなくなり、結果的に他者への協力全般が抑えられる傾向が明らかとなった。

オトルへの協力行動に関するマルチレベル分析を行ったところ、見知らぬ他者から返報的行動が期待できるという個人レベルでの返報性期待のみならず、集団レベルで共有された「互酬性の規範」機能が、オトルへの協力行動を促進している可能性が示された。

(6) 本研究プロジェクトでは、牧畜民の参与観察、大規模調査票による行動経済学および社会心理学調査、郡レベルの聞き取り調査という異なるレベル、異なるアプローチで調査・分析が行われ、それらの結果を国際シンポジウムで取りまとめた。その結果、市場経済・貨幣経済が牧畜民の伝統社会に浸透するにつれて、近隣コミュニティの共同作業の機会や互助の必要性が低下し、互酬性や利他的な意識が減少した可能性がある。市場経済が社会規範にマイナスに働くということは、都市化とともに公的な政策で移動の規範を制定する必要があることを示している。一方、オトルとして他の地域に行く機会が多い場合は、他の地域から移動してくる牧畜民に対して協力的である。牧畜社会として広い範囲で互酬性が成立していると考えられる。今後、行政機関や援助機関はこうした互酬性をうまく用いながら自然災害時のリスク軽減を図るとともに、家畜の地域的な集中を避け、移動性を上げるような政策関与について検討する必要がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 7件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Oniki Shunji, Dagys Kadirbyek, Yetyekbai Myeruyert	4. 巻 37
2. 論文標題 Market Economy and Norms of Grassland Utilization in Mongolia	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Society and Natural Resources	6. 最初と最後の頁 940 ~ 956
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/08941920.2024.2312929	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 鬼木 俊次、ダギス カディルベック、坂本 剛、八木 風輝	4. 巻 33
2. 論文標題 モンゴルの牧畜民の草原利用に関する社会規範	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 沙漠研究	6. 最初と最後の頁 59 ~ 65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14976/jals.33.1_59	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Masahiro HIRATA, Shunji ONIKI	4. 巻 32
2. 論文標題 Transformation of Afar pastoralism with climate change and a market economy	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Arid Land Studies	6. 最初と最後の頁 1 ~ 13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14976/jals.32.1_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Batmunkh Damdin	4. 巻 -
2. 論文標題 Current status and future trends of livestock industry in Mongolia	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Proceedings of Workshop on Herders' Cooperatoin, Norms, and Grassland Use in Mongolia	6. 最初と最後の頁 2 ~ 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masahiro Hirata, Batmunkh Damdin	4. 巻 -
2. 論文標題 Reciprocity among herders and acceptance of Otor: From case studies in Mongolia over the last 2 years	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Proceedings of Workshop on Herders' Cooperatoin, Norms, and Grassland Use in Mongolia	6. 最初と最後の頁 9~16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kadirbyek Dagys, Shunji Oniki, Go Sakamoto	4. 巻 -
2. 論文標題 Pasture management in Mongolia: A district-level survey	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Proceedings of Workshop on Herders' Cooperatoin, Norms, and Grassland Use in Mongolia	6. 最初と最後の頁 17~21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Go Sakamoto, Shunji Oniki, and Kadirbyek Dagys	4. 巻 -
2. 論文標題 How have changes in settlement and dairy farming in Mongolian nomadic societies affected the cooperation norms?	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Proceedings of Workshop on Herders' Cooperatoin, Norms, and Grassland Use in Mongolia	6. 最初と最後の頁 22~28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Shunji Oniki, Go Sakamoto, and Kadirbyek Dagys	4. 巻 -
2. 論文標題 Economic analysis of social norms for seasonal movement and the moral norms of Mongolian pastoralists	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Proceedings of Workshop on Herders' Cooperatoin, Norms, and Grassland Use in Mongolia	6. 最初と最後の頁 29~31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Hirata Masahiro	4. 巻 91
2. 論文標題 Milk processing systems of the Mongolian nomadic Khalkha groups in eastern Mongolia and technique transmission from West Asia	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Journal of Dairy Research	6. 最初と最後の頁 116 ~ 124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0022029924000153	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田昌弘	4. 巻 -
2. 論文標題 牧畜民の発酵乳加工とその利用	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 横山智編著『世界の発酵食をフィールドワークする』農山漁村文化協会、	6. 最初と最後の頁 64-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masahiro Hirata, Shiho Ebihara and Yusuke Bessyo	4. 巻 31
2. 論文標題 Characteristics of dietary intake among Amdo Tibetan pastoralists-from case studies in Huangnan Tibetan Autonomous Prefecture in eastern Qinghai	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Arid Land Studies	6. 最初と最後の頁 15 - 27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 平田昌弘	4. 巻 無
2. 論文標題 乳文化からみたパミールの位置 - 周辺文化との重層性 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 渡辺悌二・白坂蕃編著『変わりゆくパミールの自然と暮らし - 持続可能な山岳社会に向けて - 』	6. 最初と最後の頁 157 - 178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 坂本剛・鬼木俊次・Kadirbyek Dagys・平田昌弘
2. 発表標題 モンゴル遊牧社会における互酬性規範と協力行動ーマルチレベル分析に基づく検討ー
3. 学会等名 日本心理学会 第87回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 坂本剛・鬼木俊次・Kadirbyek Dagys・平田昌弘
2. 発表標題 モンゴル遊牧社会における互酬性への期待の機能の検討：ウランバートル市と Tuv 県の都市近郊部の遊牧民を対象として
3. 学会等名 日本社会心理学会 第63回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Masahiro Hirata
2. 発表標題 Inter-regional comparisons of milk cultural system to analyze diffusion & transition of culture in the Tibeto-Himalayan region
3. 学会等名 Seminar of International Association for Tibetan Studies , Prague
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 平田昌弘
2. 発表標題 乳文化の視座からの牧畜論考 - 全地球的地域間比較と共同研究を通じて -
3. 学会等名 海外学術調査フォーラム フィールドサイエンスと共同研究の可能性
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 平田昌弘	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 2
3. 書名 乳製品 野林厚志編「世界の食文化百科事典」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	平田 昌弘 (Hirata Masahiro) (30396337)	帯広畜産大学・畜産学部・教授 (10105)	
研究分担者	坂本 剛 (Sakamoto Go) (30387906)	中部大学・人文学部・教授 (33910)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ダグイス カデルベック (Dagys Kadirbyek)	モンゴル生命科学大学・School of Economics and Business・Head of Department	
研究協力者	エテクバイ メルエルト (Yetekbai Myeruyert)	モンゴル生命科学大学・School of Economics and Business・Lecturer	
研究協力者	オノル エンフトヤ (Onol Enkhtuya)	モンゴル生命科学大学・School of Economics and Business・Lecturer	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	サンドウイ パーサンスレン (Sandui Baasansuren)	モンゴル生命科学大学・School of Economics and Business・Lecturer	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
モンゴル	モンゴル生命科学大学			